

## 第1回 鉄道における準天頂衛星等システム活用検討会 概要

1. 日 時 : 平成31年2月19日(火) 9:00~12:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎3号館11階特別会議室
3. 出席者 : 中村日本大学名誉教授、水間東京大学特任教授、古関東京大学教授、  
鉄道事業者、関連団体、研究機関、  
国土交通省鉄道局、交通安全環境研究所
4. 結果概要 :

第1回検討会では、はじめに、本検討会の趣旨について事務局から説明を行った。次に、衛星測位利用推進センターから衛星測位全般の概況について、鉄道事業者や研究所等から鉄道分野における衛星測位の検討状況や課題、活用の可能性に関する話題提供の後、意見交換を行った。委員からの主な発言は以下の通り。

- 準天頂衛星を含む衛星測位システムを活用する際の主な課題としては、測位精度の把握、電波遮断による測位不可エリアの対応、外部からの妨害行為への対応、等が考えられる。
- 鉄道という移動体では動的な測位も重要である。
- 準天頂衛星は日本の技術であり、GPSなど他国の技術ではこれまでにオープンにされていなかったものも準天頂衛星ではオープンになっている。
- 衛星測位の展望が切り開かれ、鉄道事業全般に対して準天頂衛星をはじめ衛星測位の利活用が広がれば、鉄道にとって明るい未来が切り開かれるものと期待している。